



佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施(5)

【概要】

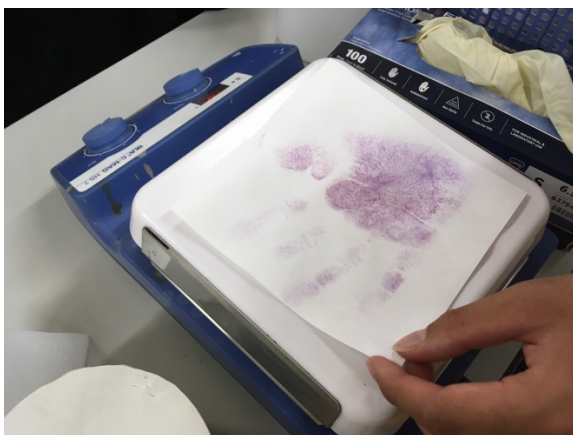
不登校支援機関の適応指導教室「くすの実」にて理工学部の教員と循環物質化学専攻大学院生らが本年度5回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である適応指導教室「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子供達の就学意欲を惹起することを目的に平成17年から行なっています。

本年度5回目の理科実験教室は、令和元年10月18日(金)に循環物質化学専攻およびシステム創成科学専攻の大学院生と理工学部機能物質化学科の学部生が、理工学系化学部門 長田聡史 准教授とともに、「科学捜査を体験してみよう」と題して行われました。

事件や事故が起きたときに警察が使う鑑識の実験として、指紋検出と血痕検出を行いました。指紋検出では、身近なアイシャドウを使って指紋をガラス板から写し取る実験を行いました。また紙に付着した見えにくい指紋を、ニンヒドリン反応を利用して検出する実験も行いました。続いてルミノール反応を利用した血痕検出の実験を行いました。暗い部屋の中で血痕に見立てた赤血塩が付着した黒いタオルに試薬を加えると青く光る様子を見て、生徒たちは歓声を上げていました。最後に赤血塩の濃度が10倍ずつ異なる溶液を使って赤血塩が触媒として働いていることと、触媒の濃度と発光の強さと持続時間との間の関係について説明をしました。



「理科実験教室」の様子